

能喩の中の児童文学

— 村上春樹と児童文学 I —

原 善¹⁾ 菅野 陽太郎²⁾
崔 順 愛³⁾ 恒川 茂樹⁴⁾

¹⁾ 日本児童教育専門学校

²⁾ 高崎健康福祉大学

³⁾ 文教大学

⁴⁾ 全国試験運営センター

Murakami Haruki and Children's Literature I

— Children's Literature in vehicles —

Hara Zen¹⁾ Kanno Yotaro²⁾
Choi Soonae³⁾ Tsunekawa Shigeki⁴⁾

¹⁾ Japan Juvenile Education College

²⁾ Takasaki University of Health and Welfare

³⁾ Bunkyo University

⁴⁾ Zenkoku Shiken Unei Center

Abstract : The purpose of this study is to confirm that Murakami Haruki is strongly affected by children's literature. There are several effective approaches we could take, such as collating Murakami's remarks on children's literature or considering the meaning of his picture book translations. In this study, we clarify the great influence children's literature had on Murakami by considering the similes employed in Murakami's literary works, one of their chief characteristics. A simile is a form of rhetoric that overlaps what is in front of you (the tenor) with something that is not here now (the vehicle) . From the entire body of Murakami's literature, we select similes for which the vehicle is children's literature. The results should show not only the fact that Murakami read a great deal of children's literature, but also the intertextuality of children's literature in his own literary works.

Key Words : Murakami Haruki, children's literature, simile, vehicle, intertextuality,

抄録 : 村上春樹が一見意外に見える児童文学からの影響を大きく受けていることを確かめるためには、彼自身の児童文学に対する発言を攫っていくことや、彼が多く為している絵本の翻訳が持つ意味を探ること、等の有効なアプローチがあるが、春樹の文学の大きな特徴の一つとされている直喩について考えることから、彼における児童文学の影響の大きさを明らかにすることができるはずである。なぜなら直喩とは眼前の喩えられるもの(所喩)に、今ここにはないもの(能喩)を重ねていくレトリックであるが、小説作品を中心にした彼の文学の全業績の中から、能喩部分に内外古今の児童文学作品が嵌め込まれている例を拾い上げていくことで、単に彼が多量の児童文学作品を読んできたという読書歴を炙り出すだけでなく、彼が自らの世界(所喩)を構築するにあたっていかに児童文学作品世界(能喩)をその下敷きに入れているかという間テクスト性に思いを及ぼすことができるはずだからである。

キーワード : 村上春樹、児童文学、直喩、能喩、間テクスト性

1 春樹における児童文学の影響

村上春樹は、毎年ノーベル文学賞の受賞が噂され、いまや日本だけでなく世界における同時代作家の第一人者である。彼の幅広い仕事は、小説だけでなくエッセイやノンフィクションや紀行・評論・翻訳という驚くほど幅広い領域に及んでいる中に、絵本の創作と翻訳もあることを知っているならば、意外ではないかもしれないが、村上春樹の文学と児童文学の関係には大変に深いものがある⁽¹⁾。〈少年向けの本を読み終えると、貪欲なネズミが別の食料庫に移動するように、今度は成人向けの本を漁り始めた。そのようにして僕は果てしなく、書物の世界に引き寄せられていった。〉¹⁾ といった形で披露される、子ども時代の読書量からは、当然あらゆる古今東西の児童文学が渉猟されたことが分かるし、そこからはそれらの影響がなにがしかは彼の成人してからの創作行為に影を落としている可能性を予想することができるだろう。例えば「スパゲティー工場の秘密」(『象工場のハッピーエンド』83・12)のようにタイトルからしてロアルド・ダールの「チョコレート工場の秘密」を踏まえていることを明らかにしている作品などの他にも、『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』(85・6)が「不思議の国のアリス」を、そして『ダンス・ダンス・ダンス』(88・9)が「ピーターパン」を踏まえているだろうことは、村上作品を読みこんでいる読者には容易に思い当たるはずである⁽²⁾。

そうした村上春樹文学における児童文学の影響の大きさと意味について明らかにしていくためには、(1)彼自身が児童文学に対してどのような発言をしているかをエッセイ類の中から拾い集めていくことや、(2)春樹自身が書いた絵本である『ふわふわ』(98・6)の評価⁽³⁾、あるいは(3)彼が翻訳した数多い絵本に対する翻訳の必然性の分析、そして上記のような(4)春樹作品の構造や主題の分析を通しての下敷きにされた作品の炙り出し、等々といった幾つものアプローチが可能だろう。あるいはそれら全てが為されなければならないだろう。

しかし紙幅の限られたここでは、意外な経路に見られかねないが、以上のような作業には必然的に伴われる主観的な揺れ・誤差が入りにくいという意味

でも、彼の作品の中の直喩表現の中に現われている児童文学の影を追うことに絞った。すなわち《AはBのようにCだ》という直喩におけるBの能喩部分に児童文学作品が現れているものを抽出することである。そうすることの理由を明らかにするためにも、まずは春樹文学の直喩に注目されてきた歴史を振り返りながら、直喩を探ることの有効性を見ていきたい。

2 直喩への読者・評者の注目

〈村上春樹の特徴として、直喩の多用(あるいは濫用)とユニークさが指摘されてきた。〉²⁾ と言われるとおり、村上春樹の文学におけるレトリックとしては直喩の特異性が注目されてきている。それはたとえば読者からも〈村上さんの比喩は鋭く独特ですが、どうやって思いつくのでしょうか?〉³⁾ といった質問が直接ぶつけられたり、評者からも〈村上春樹は初期から一貫して比喩の見事な使い手だった〉⁴⁾ と指摘されたり、という具合に、誰の目からも明らかな大変特徴的なことである。それゆえに「〈ハルキ・ワールドの歩き方〉直喩ライブラリー」⁵⁾ といった資料や、あげくは『村上春樹読める比喩事典』⁶⁾ といった本までが出されるほどである。

しかし残念ながら、その頻出ぶりは、〈「何々のようなビールグラス」といった類いの比喩は、尻を洩らすようにチョロッと出てきてしまうところに良さがあるはずなのに、この人はどうも一所懸命で考えてつくっているのである。この人の小説を読んでうんざりするの、やたらと出てくるこの手の比喩につき合わされるたびに、この人の一所懸命さを感じてしまうというところに原因の七〇%位があるのではないかと思う。「どう、カッコイイ比喩でしょう?」と念を押されているような気がする。〉⁷⁾ という具合に評者を辟易もさせてきているようで、必ずしも全面的に肯定的な評価が為されているわけではないし、〈村上作品の比喩には二つの大きな特徴がある。第一は、引き合いに出されるもの(〈比較体〉)が、日常たとえとしてよく使われるものでもなく、当然読者の意識になじんだものでもないということだ。つまり、読者が考えてもみなかったような新鮮な取り合わせなのである。〉⁸⁾ という具合に、直喩一般の特徴である《意外性》が言われる程度の理解に

とどまっていたりもして、十分にその機能と魅力が解き明かされているわけではないのである⁽⁴⁾。

3 注目すべき能喩

そもそも《AはBのようにCだ》という《直喩》なるレトリックは、〈昨今、日常生活の伝達をより効果的にし、新しい創造的な世界を作りあげていくための、認識と発見の手段として評価され直してい⁹⁾て、〈認知言語学的な観点からも興味深い¹⁰⁾もののはずである。今ここにある所喩 (tenor) Aの隣に、今ここにない能喩 (vehicle) Bのイメージを喚び起こすシステムの中で、AがCだと言えば済む中であえて持ち出されているBは、〈類似性よりはむしろ意外性によって効果を発揮している¹¹⁾という意外性の面白さだけでなく、〈たとえる方の素材の選択には、表現者の嗜好や性質、思考、心理、環境などが直接的にあらわれる¹²⁾以上、そのBの特質こそ解析されてしかるべきなのである。そしてその能喩部分には〈その部分だけからでも（というより、それゆえに）、勝手に楽しい想像の輪がどんどん広がってってしまうという、村上春樹ならではの独特の面白さがある。〉と述べられているように、〈奇妙不可思議でユーモラスな描写・形容が見られる¹³⁾能喩だけを並べてみせる事典は、その特徴と傾向を探るための一覧として大変意義深いもののはずである。にもかかわらず、そうした例であるはずの『村上春樹読める比喩事典』自らが、〈比喩表現と喩えられるものとの距離の取り方が、村上春樹は絶妙なのですね。¹⁴⁾という具合に、直喩の特質である意外性を〈距離の取り方〉として正しく認識しながら、能喩と所喩という言葉を使わないで〈比喩表現〉と〈喩えられるもの〉という曖昧な言い方をしているために、著しい混乱をきたしているのである。

やや回り道ではあるが、能喩の機能と意義とを確認するための先行研究批判として、『村上春樹読める比喩事典』の読めない部分を論じてみたい。

4 能喩への無理解

本来は意義深く読めたはずの『村上春樹読める比喩事典』も、〈比喩に季節が入ると、村上春樹らしい予想外の比喩はなくなる¹⁵⁾といった、前者の〈比

喩〉は能喩とすべきところを、用語に対する慎重さが欠けているために、例えば〈秋のいなごのように私の豊潤な眠りを奪っていく〉といった引例で〈いなご〉に〈秋〉がつくことを〈予想外〉ではない、としている（そのことは確かに無くもがなの形容だとは言える）が、直喩の意外性とは能喩と所喩の距離のことであり、〈眠れないということをも眠りが奪われたとして、その奪い手に〈いなご〉を持ち出すのが〈予想外〉なのであって）、能喩の中の修飾語（〈秋の〉）と被修飾語（〈いなご〉）の関係では決していないのだ。

また、〈「時間そのものを撫でたり、吸ったり、舐めたりしているように見えた」という比喩〉をめぐって〈抽象度の高い「時間」が具体的にイメージしやすいものに喩えられる、というのが普通ですが、ここでは逆。具体的なセックス行為の対象である僕の体の部位が、時間に喩えられています。〉¹⁶⁾（傍点引用者）といった説明もあるが、そもそもこういった説明の際に所喩と能喩の区別が分かりにくい。AがBに喩えられる、という場合には、頬が林檎に（よって）喩えられる（受身）、ということもありうるが、林檎が頬に（対して）喩えられ（う）る（可能）、という表現もありうるなかでは、所喩と能喩の逆転を言おうとしているのなら猶更に、誤解のないように細心の表現を心がけるべきで、ここは絶対に《AがBで喩えられる》と書かれるべきだった。こんなところに著者の《所喩と能喩の区別》への認識の曖昧さが露見しているのだ。

さらには〈「僕」をめぐる考察〉という章で、〈自分の顔は（…）僕の顔の形をとった他人の顔だった〉、〈その壁はまるで僕自身の皮膚のように感じられた。〉という二つの引例が並べられているが¹⁷⁾、そもそも〈僕〉は前者では所喩であり後者では能喩であるという全く逆の物を同列に並べているし、そして《AはBのようにCだ》というCに関しても前者は違和感であり後者は一体感であるという正反対の物が並べられている。事典である限りは、AかBかCかのどれで分類するかをはっきりさせなければ、事典として利用しようがない、ただの読み物になってしまう。それを『読める比喩事典』と謳うのは開き直りも甚だしいのではなからうか。

本来は直喩の機能を正しく認識して、その能喩部

分を通覧することができていれば、単なる読み物にとどまらない、様々な村上春樹的特質が見えてきていたはずなのであって、こうした事典は正しく編めていたならば実は大変に有効な手続きだったはずなのだ。その中の一つとして、能喩の中に出てくる児童文学作品を拾っていくことで、村上春樹がいかにかに児童文学の影響を大きく受けているかを明らかにできるはずなのである。

5 能喩の中の児童文学一欄の凡例

ということで、(作品全体がオマージュ的に踏まえている作品などは別に(上記(4)の手続きで)考えることにし)、ここでは直喩のかたちを取った言及のみに絞ることとして、村上春樹の作品の中で能喩部分に①児童文学名(あるいはその②登場人物名、あるいは③内容を示唆する言及)が含まれている表現を抽出した一欄を以下に掲げることにする。

これによって村上春樹が多くの児童文学作品を意識的か無意識的かを問わず、いかに頻繁に自らの作品の中に取りこんでいるかを理解できるはずである。これは、村上春樹の作品(A)の下敷きに児童文学作品(B)を透かし見る、上記の(4)の手続きによって、作品の間テキスト性(C)が考えられるのと同じく、今ここの作品の言説(A)の中に嵌め込まれた児童文学の影(B)が作品に厚みと深みを齎しているはずなのであり、村上春樹が作品に取り入れた児童文学にはどんな傾向があり、どのような効果を及ぼしているのか(C)等、その具体的な在りようの分析は別の機会を俟つにしても、まずはその影響の大きさを量的に測定できる資料として、益するところが大きいはずである。

以下、その表の凡例的なものを記しておく。

- 以下の一覧は直喩表現の能喩の部分に先の①～③までの児童文学に関わる事柄が出てきた村上春樹作品の本文を、児童文学作品の作者氏名の五十音順に掲げている。なお、作者未詳、外国人、日本人の順にした。
- 作者が明確でない民間伝承等については作者不詳とした。
- 同一の作品の場合には村上春樹作品の成立順にした。
- 外国の児童文学の作品名・作者名の表記は、本文に表記がある場合には、それに従った。
- 村上春樹作品からの引用は文庫版のあるものはそれに拠り、ないものは初刊本に拠って、その頁数を略記した。
- ルビについては作者が施したとは限らないので省き、傍点などの作者が施したと思われるものは残した。
- 村上春樹の作品名については、長編および短編集名は以下のように略記し、短編はそのまま記して、所収短編集名を括弧の中に示したが、表題作の場合はそれを省いた。
 - 『風の歌を聴け』⇒風の歌
 - 『1973年のピンボール』⇒ピンボール
 - 『羊をめぐる冒険』⇒羊を
 - 『カンガルー日和』⇒カンガルー
 - 『螢・納屋を焼く・その他の短編』⇒螢・納屋
 - 『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』⇒世界の
 - 『回転木馬のデッド・ヒート』⇒回転木馬
 - 『パン屋再襲撃』⇒パン屋
 - 『ノルウェイの森』⇒ノルウェイ
 - 『ダンス・ダンス・ダンス』⇒ダンス
 - 『国境の南、太陽の西』⇒国境の南
 - 『ねじまき鳥クロニクル』⇒ねじまき鳥
 - 『スプートニクの恋人』⇒スプートニク
 - 『海辺のカフカ』⇒海辺
 - 『アフターダーク』⇒アフター
 - 『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』⇒色彩を
 - 『騎士団長殺し』⇒騎士団長
- 調査の対象は小説に限らない全作品であるが、①・②のような固有名詞が出てくる場合以外の③の場合には主観的な解釈・判断の揺れがありうるので、あるいは遺漏も多いかもしれない。御教示・御批正を乞いたい。

6 能諭の中の児童文学一覧表

能諭の中の児童文学一覧表

No.	児童文学作品名	作者名	村上春樹作品本文	村上春樹作品名	巻数・頁数
1	赤ずきん	—	「(…) どんなにうまく声色を使っても、狼さんにはドアを開けてくれないんです。ノックして『こんにちは、お友だちの兎さんですよ』って言ってもね、合言葉がなければあっさりこんと門前払いです。(…)」	ねじまき鳥	3-276
2	アラジンと魔法のランプ	—	「(…) 子供のころ『アラジンと魔法のランプ』てのを読みまして、いのようにこき使われるランプの魔人にいたく同情した覚えがあるんですが、いやはや、まさか大きくなって自分がそうなるとは思いませんでしたね。(…)」	ねじまき鳥	3-249
3	アラジンと魔法のランプ	—	「もしナカタさんがここでその入り口の石を開けることができたとしたらだね、それを合図にして、何かすげえことがどかんと持ち上がるのかな。『アラジンと魔法のランプ』みたいにとんでもないなんとかの精みたいなのが現れるとか、カエルの王子がびよんと出てきて俺たちに強烈なディープ・キスするとか、火星人のエサにされちゃうとか」	海辺	下177
4	三匹の子豚	—	「3匹の子豚の兄貴のほうで作った出来そこないの家になったみてえな気分だ。悪い狼さんのひと吹きで、岡山あたりまでひゅうっと飛ばされちまいそうだ」	海辺	下207
5	ジャックと豆の木	—	(…) 白い煙は地面からそのまままっすぐ夏の空へと立ちのぼっていった。『ジャックと豆の木』に出てきた、雲の上にまで伸びる巨大な木みたいに見えた。	ねじまき鳥	2-318
6	白雪姫	—	彼が口笛で吹いているのは、ディズニー映画『白雪姫』の中で7人のこびとたちが歌う「ハイホー！」だった。	海辺	上303
7	白雪姫	—	そのあいだもずっと彼は「ハイホー！」を口笛で吹き続けていた。	海辺	上304
8	白雪姫	—	彼は口笛で「ハイホー！」を吹きながら、猫の身体に手を突っ込み、小型のメスで手際よく心臓を切り取った。小さな心臓だった。	海辺	上305
9	白雪姫	—	ジョニー・ウォーカーは「ハイホー！」を口笛で吹きながら、猫の首を鋸で切り取った。	海辺	上306
10	白雪姫	—	血の匂いがする。耳の中で「ハイホー！」のメロディーが鳴り響いている。	海辺	上307
11	白雪姫	—	手の甲で血糊を拭う。口笛の「ハイホー！」。	海辺	上308
12	白雪姫	—	彼は「ハイホー！」を吹きながら、次の猫を出してきた。	海辺	上308
13	白雪姫	—	「アレルギーのこと？」 / (…) 「私はそういうのはとくに何も無い」 (…) 「病気ひとつしたことないし……。だからうちではお姉さんが感じやすい白雪姫で、私は丈夫な山羊飼いの娘なわけ」 / 「白雪姫は一家に二人もいないから」	アフター	173
14	白雪姫	—	「つまりさ、妹である君はいつも、自分が手に入れたものごとのイメージをきちんと持っていた。(…) 君の言葉を借りれば、立派な白雪姫になろうと務めてきたんだ。(…)」	アフター	189
15	白雪姫	—	そしてそこから小さな人々がぞろぞろと出てきた。全部で六人。出てきた時は高さが十センチほどしかなかったが、地面に立つと、まるで雨のあとにキノコが伸びるように、彼らは急速に大きくなった。といっても、せいぜい六十センチくらいのものだ。そして自分たちは「リトル・ピープル」だと言った。 / 『白雪姫と七人のコビトたち』みたいだ、と少女は思った。小さい頃に父親からその話を読んでもらったことがある。でもそれには一人足りない。	1Q84	2後178
16	白雪姫	—	あの子はとてもきれいで清楚だった。ディズニー版の白雪姫みたいに。でも私はそうじゃない。ユズと一緒にいる限り、私はいつも森のこびとと七人分みたいな役回りだった。まあ仕方ないよ。	色彩を	336
17	シンデレラ	—	時計が十時二十分を指したところで、そろそろ帰らなくちゃ、と彼女が言った。「十一時までには戻らなくちゃいけないのよ」 / 「ずいぶん厳しいんだね」 / 「ええ、兄貴がうるさいの」 / 「靴を忘れないようにね」 / 「靴？」 五、六歩あるいてから彼女は恥かしそうに笑った。 / 「ああ、シンデレラね。大丈夫、忘れないわ」	中国行きのスロウ・ボート	30
18	眠れる森の美女	—	「たとえば僕が意識を完全に放棄してどこかにきちんと固定化されたとしたら、僕にも立派な名前がつくんだろうか？」 / (…) 「固定化といいますと？」 / 「つまり冷凍されちゃうとか、そういうことだよ。眠れる森の美女みたいにさ」	羊を	上264

No.	児童文学作品名	作者名	村上春樹作品本文	村上春樹作品名	巻数・頁数
19	眠れる森の美女	——	然るべき時が来るまでは、誰も私の眠りをさまたげることはできない。私はトラブルの衣にくるまれた絶望の王子なのだ。フォルクスワーゲン・ゴルフくらいの大きさのひきかえがやってきて私に口づけするまで、私はこんこんと眠り続けるのだ。	世界の	上334
20	眠れる森の美女	——	「母の葬儀が終わってから三週間のあいだ、父は眠り続けた。(…)まるで呪いをかけられた眠り姫みたいに、こんこんと眠っていたんだ。(…)」	レキシントンの幽霊	35
21	眠れる森の美女	——	「(…) 眠っている姉はほんとにきれいなんです。(…) (…)/「眠り姫みたい」/「そう」/「誰かのくちづけでぱっと目が覚める」とコオロギは言う。	アフター	242
22	ヘンゼルとグレーテル	——	「(…) 君自身の内にセットされた迷宮に足を踏み入れることになる。(…)/「森に入っていったヘンゼルとグレーテルみたいに」/「そう。ヘンゼルとグレーテルみたいに。森は罠をしかけている。君がどれだけ用心して工夫しても、目ざとい鳥たちがやってきて目じるしのパンくずを食べてしまう」	海辺	下271
23	ヘンゼルとグレーテル	——	闇に包まれた深い森を手探りで抜けていく幼い子供たちのように、彼らの手は堅くひとつに握りあわされている。	1Q84	3後354
24	ロビン・フッド	——	ロビン・フッドの家来たちが宴会をしたら似合いそうな、いかにも頑丈なテーブルだ。	騎士団長	1下184
25	王様の耳はロバの耳	イソップ物語	「僕らは正論を言いあってる」/ (…)/「ずいぶんすっきりした」/ (…)/「『王様の耳はロバの耳』みたいだ。穴を掘って怒鳴るんだ。口に出しちゃえばすっとする」	ダンス	下198
26	王様の耳はロバの耳	イソップ物語	「あなたの中には深い井戸みたいなのが開いているんじゃないかしら。そしてそこに向かって『王様の耳はロバの耳!』って叫ぶと、いろんなことがうまく解消しちゃうんじゃないのかしら」	ねじまき鳥	1-66
27	金の斧	イソップ物語	泉の精が現れて、あなたが今投げ込んだのは金のふたですか、それとも銀のふたですか、と質問するんじゃないかという気がしたくらいだった。	ダンス	上67
28	金の斧	イソップ物語	「(…) 泉に車を落としたらイザベル・アジャーニみたいな泉の精が出てきて『今落としたのは金のマセラティですか、銀のBMWですか』って訊くから、いいえ僕の車は銅の中古のスパルですって答えたんだ。(…)」	ダンス	下220
29	スイスのロビンソン	ヨハン・ダビット・ウィース	家が古びていくのとは対症的に樹木は休むことなく生長しつづけ、まるで「スイスのロビンソン」に出てくる樹上家屋のように建物をすっぽりと包んでいた。	羊を	下143
30	あしながおじさん	ジーン・ウェブスター	(…) 僕は二人のために新しいスポーツ・シャツを二枚買い (…)/靴下と、新しいスニーカーも買い与えた。そしてまるで足長おじさんのような気持になった。	ピンボール	137
31	鏡の国のアリス	ルイス・キャロル	そこに行けばそことはまったく違う世界に入り込めるような気がする。価値の転換した上下逆の世界。「鏡の国のアリス」みたいに。	ダンス	下347
32	不思議の国のアリス	ルイス・キャロル	直子は首を振って一人で笑った。成績表にずらりとAを並べた女子学生がよくやる笑い方だったが、それは奇妙に長い間僕の心に残った。まるで「不思議の国のアリス」に出てくるチェシャ猫のように、彼女が消えた後もその笑いだけが残っていた。	ピンボール	10
33	不思議の国のアリス	ルイス・キャロル	「(…) アリスの不思議の国と同じで、そこにもぐりこむためにはとくべつの薬が必要なわけですね。いや、ルイス・キャロルのあの話は本当によくできておるです」	世界の	下94
34	不思議の国のアリス	ルイス・キャロル	彼女がチェシャ猫のように笑顔だけを残して消えてしまうと、僕はそのメモを手にとり、必要な電話を何本かかけた。	双子と沈んだ大陸 (パン屋)	130
35	不思議の国のアリス	ルイス・キャロル	沈黙。物音ひとつ聞こえない夜。そういう情景を想像しただけで胃が固くこわばってしまう。「不思議の国のアリス」に出てくる気違い帽子屋のお茶会の方がずっとましだった。	ダンス	下291
36	不思議の国のアリス	ルイス・キャロル	僕は文学と縁もゆかりもないところで長いあいだ仕事をしていて、何かの加減で、ほとんど何の自覚もないままにほんとと作家になってしまったので、当時のいわゆる「純文学」業界のしきたりみたいなことが何ひとつわからず、おかげでずいぶん奇妙な体験をするようになった。なんだか不思議の国のアリスになったような気分だった。	かえるくんのいる場所 (はじめての文学 村上春樹)	261

能諭の中の児童文学

No.	児童文学作品名	作者名	村上春樹作品本文	村上春樹作品名	巻数・頁数
37	不思議の国のアリス	ルイス・キャロル	まともな頭を持つ人々にとってはそんなものはみんな、小説の中に出てくるただの作り事でしかないのだから。『不思議の国のアリス』とトランプの女王や、時計を持ったウサギの存在を信じられないのと同じことだ。	1Q84	2後201
38	不思議の国のアリス	ルイス・キャロル	おれはひょっとして、何かの加減で現実の世界を離れ、『空気さなぎ』の世界に入り込んでしまったのだろうか。ウサギ穴に落ちたアリスみたいに。	1Q84	2後208
39	不思議の国のアリス	ルイス・キャロル	「ねえ、あれってアリスの穴みたいじゃない？」と妹は私に言った。／彼女はルイス・キャロルの『不思議の国のアリス』の熱狂的なファンだった。	騎士団長	1下155
40	不思議の国のアリス	ルイス・キャロル	とくに彼女が好きなのは「イセエビ踊り」の部分だった。(…)／「うさぎはいないようだけど」と私は言った。	騎士団長	1下155
41	不思議の国のアリス	ルイス・キャロル	「下の方にぐっと下がっているの。アリスのうさぎの穴みたいに。奥の方をちょっと見てみたいな」	騎士団長	1下156
42	不思議の国のアリス	ルイス・キャロル	妹はアリスの穴の中に吸い込まれて、そのまま消えてしまったのかも知れない。偽ウミガメや、チェシャ猫や、トランプの女王のいる世界に。	騎士団長	1下157
43	不思議の国のアリス	ルイス・キャロル	「(…)でもね、たとえぜんぶ身体が消えちゃったとしても、私はちゃんとそこに残ってるわけ。チェシャ猫が消えても、笑いが残るみたい。(…)」	騎士団長	1下160
44	不思議の国のアリス	ルイス・キャロル	「知ってる？ アリスって本当にいるんだよ。嘘じゃなくて、実際に。三月うさぎも、せいうちも、チェシャ猫も、トランプの兵隊たちも、みんなほんとにこの世界にいるんだよ」	騎士団長	1下160
45	不思議の国のアリス	ルイス・キャロル	この世界には本当にアリスは存在するのだ。三月うさぎも、せいうちも、チェシャ猫も実際に実在する。そしてもちろん騎士団長だって。	騎士団長	1下162
46	不思議の国のアリス	ルイス・キャロル	それから騎士団長は消えた。チェシャ猫が消えるみたいにじわじわと段階的に。	騎士団長	1下260
47	ミダス王伝説	ギリシャ神話	でも疲労でさえ彼が身につけるとチャームングに見えた。(…)ただ何をしてもチャームングに見えてしまうだけのことなのだ。ちょうど何に手を触れてもそれが黄金に変わってしまうあの伝説の王様のように。	ダンス	下30
48	かえるの王さま	グリム童話	然るべき時が来るまでは、誰も私の眠りをさまたげることにはできない。私はトラブルの衣にくるまれた絶望の王子なのだ。フォルクスワーゲン・ゴルフくらいの大きさのひきがえるがやってきて私に口づけするまで、私はこんこんと眠り続けるのだ。	世界の	上334
49	かえるの王さま	グリム童話	「もしナカタさんがここでその入り口の石を開けることができたとしたらだね、それを合図にして、何かすげえことがどかんと持ち上がるのかな。『アラジンと魔法のランプ』みたいにとんでもないなんとかの精みたいなのが現れるとか、カエルの王子がびよんと出てきて俺たちに強烈なディープ・キスするとか、火星人のエサにされちゃうとか」	海辺	下177
50	ピーナッツ (スヌーピー)	チャールズ・モンロー・シュルツ	そのグラスにはスヌーピーとウッドストックが犬小屋の上で楽しそうに遊んでいる漫画が描かれ、その上にはこんな吹き出し文字があった。／「幸せとは暖かい仲間」	ピンボール	68
51	ピーナッツ (スヌーピー)	チャールズ・モンロー・シュルツ	「(…)君はいつもそんな大きな荷物をついで歩きまわっているのかい。それじゃまるで、チャーリー・ブラウンの漫画に出てくる男の子が肌身はなさず持っている毛布みたいじゃないか」	海辺	下189
52	ガリヴァー旅行記	ジョナサン・スウィフト	雲はびくりとも動かず、「ガリヴァー旅行記」に出てくる空に浮かぶ国みたいに、都市の頭上を重く覆っていた。	ダンス	上87
53	ガリヴァー旅行記	ジョナサン・スウィフト	「なるほど」と僕は言った。その意味のない相槌は、『ガリヴァー旅行記』に出てくる空に浮かんだ島みたいに、テーブルの上にしばらくのあいだ虚しく漂っていた。	ねじまき鳥	1-86
54	クリスマス・キャロル	チャールズ・ディケンズ	女の子はまた僕を見た。それからまあ仕方ないという風に何度か肯いた。よりごのみできる立場じゃないんだ、というように。それで僕は彼女に対してすごくひどいことをしているような気になった。なんだかスクルージ爺さんになったような気分だった。／スクルージ爺さん。	ダンス	上223
55	クリスマス・キャロル	チャールズ・ディケンズ	「ヘルプ・ミー・ロンダ」のリフも二人で歌った。僕もまだ捨てたものではない。僕はスクルージ爺さんではないのだ。	ダンス	上236

No.	児童文学作品名	作者名	村上春樹作品本文	村上春樹作品名	巻数・頁数
56	クリスマス・キャロル	チャールズ・ディケンズ	シノップのホテルで、夜中にホテルは突然停電した。ロビーに下りていってみると、フロントの男がスクルージ爺さんみたいに、蠟燭の光で一日の売上を勘定していた。	雨天炎天	129
57	——	ウォルト・ディズニー	昔、ディズニーの動物映画で死にかけたシマウマがちょうどあんな色の泥水を飲んでたな。	ピンボール	165
58	——	ウォルト・ディズニー	どこがどう奇妙なのかと言われてもうまく説明できないのだが、最初にまず感じるのはこれらの建物はどことなく奇妙だということだった。それは我々が非現実を心地良く描こうとした絵からしばしば感じとる情感に似ていた。ウォルト・ディズニーがムンクの絵をもとに漫画映画を作ったらあるいはこんな風になるのかもしれないと僕はふと思った。	ノルウェイ	上208
59	砂漠は生きている	ウォルト・ディズニー	「(…) なあ小学校の頃にウォルト・ディズニーの『砂漠は生きている』っていう映画見たことあるだろう？」	国境の南	111
60	砂漠は生きている	ウォルト・ディズニー	「『砂漠は生きている』、ディズニーのやつだよ。砂漠についての記録映画だよ。小さい頃に見なかった？」	国境の南	289
61	ポカホンタス	ウォルト・ディズニー	「(…) ミッキー・マウスやらポカホンタスの格好をしたりしたら、ウォルト・ディズニー社からさぞかしねんごろに高額訴訟されそうだが、騎士団長ならそれもあるまい」	騎士団長	1下127
62	ポカホンタス	ウォルト・ディズニー	暗闇の中で鈴を振っているミッキー・マウスやポカホンタスだって、ずいぶん気味悪かったに違いない。	騎士団長	1下127
63	ミッキー・マウス	ウォルト・ディズニー	それは「ミッキー・マウス・クラブの歌」だった。こんな歌詞だったと思う。／「みんなの楽しい合言葉、MIC・KEY・MOUSE。」	風の歌	51
64	ミッキー・マウス	ウォルト・ディズニー	「とりあえず、カーネル・サンダーズという、資本主義社会のアイコンとでも言うべき、わかりやすいかたちをとっているだけだ。ミッキー・マウスだってよかったんだが、ディズニーは肖像権についてはうるさい。訴訟されるのはごめん」	海辺	下119
65	ミッキー・マウス	ウォルト・ディズニー	「まあ俺もあんまり、ミッキー・マウスに女を紹介されたくないね」	海辺	下119
66	ミッキー・マウス	ウォルト・ディズニー	「(…) ミッキー・マウスやらポカホンタスの格好をしたりしたら、ウォルト・ディズニー社からさぞかしねんごろに高額訴訟されそうだが、騎士団長ならそれもあるまい」	騎士団長	1下127
67	ミッキー・マウス	ウォルト・ディズニー	暗闇の中で鈴を振っているミッキー・マウスやポカホンタスだって、ずいぶん気味悪かったに違いない。	騎士団長	1下127
68	ロビンソン・クルーソー	ダニエル・デフォー	コーヒーも紅茶も番茶も、やかんさえなかった。小さな鍋がひとつあるきりで (…)/ 「いったいどうやって暮してるの？ まるでロビンソン・クルーソーじゃない？」	ピンボール	66
69	ピーターパン	ジェームス・マシュー・バリー	彼女の笑顔の中にはなにかしら僕の心をひきつけるものがあった。まるでホテルのあるべき姿を具現化したホテルの精みたいだ、と僕は思った。手に小さな金の杖を持ってさっと振ると、ディズニー映画みたいに魔法の粉が舞って、ルーム・キーが出てくるのだ。	ダンス	上66
70	ちびくろサンボ	ヘレン・バンナーマン	(…) 彼女のまわりの男たちのたいていはそれとまったく同じ理由で彼女のことを高く評価していた。(…) そしてそれが彼女のそんな傾向をまた助長していた。いわゆる悪循環というやつだ。(…) 「ちびくろサンボ」に出てくる三匹の虎みたいに、バターになるまでやしの木のまわりを走りつづけることになる。	今は亡き王女のための(回転木馬)	88
71	ちびくろサンボ	ヘレン・バンナーマン	「どれくらい私のこと好き？」と緑が訊いた。／「世界中のジャングルの虎がみんな溶けてバターになってしまうくらい好きだ」と僕は言った。	ノルウェイ	下236
72	ちびくろサンボ	ヘレン・バンナーマン	やがて猫は木の根もとをぐるぐると走ってまわり始めた。すごい勢いで、まるで絵本に出てくるバターになっちゃうトラみたいに。	スポーツニク	161
73	オズの魔法使い	ライマン・フランク・ボーム	一角獣や高い壁が出てくるとなるとなおさらだ。まだ『オズの魔法使い』の方がいくぶん現実的であるような気がする。	世界の	下276
74	オズの魔法使い	ライマン・フランク・ボーム	目を覚ましてしばらくすると、『オズの魔法使い』にでてくる竜巻のように空腹感が襲いかかってきた。	パン屋再襲撃	12
75	オズの魔法使い	ライマン・フランク・ボーム	外に出ると酔いが真夜中の貨物列車みたいに急激に僕の体の中を通り抜けていった。まったくひどい気分だった。『オズの魔法使い』のブリキ男のように体がきしんだ。	ファミリー・アフェア(パン屋)	114

No.	児童文学作品名	作者名	村上春樹作品本文	村上春樹作品名	巻数・頁数
76	オズの魔法使い	ライマン・フランク・ボーム	何かを思いだそうとすると、体じゅうの筋肉だか神経だかが軋んだような音を立てた。『オズの魔法使い』に出てくる錆びついて油の切れたブリキ人間になったみたいなのがした。	ねじまき鳥	2-259
77	クマのプーさん	アラン・アレクサンダー・ミルン	「でもそんなに美味く……」と僕が言いかけたところで彼女が僕の足を蹴とばした。まわりの人間が僕の方をじろりと見た。(…)でも僕は「熊のプー」のような無邪気な目をしてその場をやりすごした。	とんがり焼きの盛衰 (カンガルー)	144
78	白鯨	ハーマン・メルヴィル	エイハブ船長は鰐を追いかけるべきだったのかもしれない	騎士団長	2上210
79	蜘蛛の糸	芥川龍之介	(…)今のところは細い糸にすぎるような具合に少しずつ小説を書きつづけている。	あとがき (螢・納屋)	189
80	手袋を買いに	新美南吉	僕はどういうわけか小学校の学芸会でやった芝居のことを思いだした。僕はそこで手袋屋のおじさんの役をやった。子狐が買いに来る手袋屋のおじさんの役だ。でも子狐の持ってきたお金では手袋は買えない。	螢	63
81	手袋を買いに	新美南吉	僕はソファに寝転んだまま、学芸会の芝居のつづきを思いだそうとしてみたが、もううまく思い出せなかった。子狐は手袋を手に入れることができたんだっけ？	螢	71
82	やぎさんゆうびん	まどみちお	僕は受話器を押えてため息をついた。堂々めぐりだ。黒山羊が白山羊の手紙を食べて、白山羊が黒山羊の手紙を食べて……	羊を	上253

【注】

- (1) ここでは《児童文学》として、アニメーション・漫画、神話・民話等も含ませ、成人向け作品との判別が難しいものについては、岩波少年文庫などの少年向けシリーズや児童向け刊本・絵本・映画等として現時点で確認できるもののみを取り扱ったが、この規定については今後の検討課題としたい。
- (2) 例えば後者の「ピーターパン」については、小林正明『村上春樹 塔と海の彼方に』(1998・11、森話社。)の中で、既に指摘されている。
- (3) 村上春樹の絵本「ふわふわ」については、原善「絵本について論ずるときに我々の論ずること — 村上春樹「ふわふわ」論のために —」(『敬心・研究ジャーナル』第1巻第2号、2017・10。p51-61、敬心学園。)参照。
- (4) それらについての詳細は、原善「春樹のような直諭／直諭のような春樹」(『上武大学図書館だより』11号、1998・11。p4-5、上武大学。)および原善「〈ハルキ・ワールドの歩き方〉直諭ライブラリー — 春樹世界の本質に迫る足掛かり」(『〈アエラムック〉村上春樹がわかる。』2001・12。p126-129、朝日新聞社。)などを参照されたい。

【引用文献】

- 1) 村上春樹 (2011) 「物語の善きサイクル」『村上春樹 雑文集』、p404、新潮社。
- 2) 深津謙一郎 (2005) 「村上春樹『神の子どもたちはみな踊る』の比喩表現」『表現研究』81号、p34、表現学会。
- 3) 村上春樹 (2000) 『「そうだ、村上さんに聞いてみよう」と世間の人々が村上春樹にとりあえずぶっつける282の大疑問に果たして村上さんはちゃんと答えられるのか?』、p27、朝日新聞社。
- 4) 沼野充義 (2013) 「色彩、比喩、ノスタルジア — ト라우マと正しさをめぐる静かな物語」『文學界』第67巻6号、p169、文藝春秋。
- 5) 上武大学経営情報学部歴代原ゼミ (監修：原善) (2001)

- 「〈ハルキ・ワールドの歩き方〉直諭ライブラリー」『〈アエラムック〉村上春樹がわかる。』、p130-138、朝日新聞社。
- 6) 芳川泰久・西脇雅彦 (2013) 『村上春樹読める比喩事典』、p1-304、ミネルヴァ書房。
 - 7) ねじめ正一 (1984) 「カクレ抒情が濡れる時 マスターから抜け出す方法」『HAPPY JACK 鼠の心』、p67、北宋社。
 - 8) 石倉美智子 (1998) 「村上春樹作品の比喩について — 『1973年のピンボール』を中心に —」『村上春樹 サーカス団の行方』、p54、専修大学出版局。
 - 9) 波瀬蘭 (2011) 「『三つのドイツ幻想』あるいは直諭のような春樹文学について」『村上春樹超短篇小説案内』、p36、学研。
 - 10) 霜崎實 (2009) 「比喩をめぐる考察 — 村上春樹作品を資料として —」『SOPHIA LINGUISTICA』LVII、p62、上智大学。
 - 11) 佐藤信夫 (1978) 『レトリック感覚』、p69、講談社。
 - 12) はんざわかんいち (1985) 「遊びとしての比喩もどき — 村上春樹論のために —」『文學芸術』8号、p117、共立女子大学。
 - 13) はんざわかんいち (1985) 「遊びとしての比喩もどき — 村上春樹論のために —」『文學芸術』8号、p118、共立女子大学。
 - 14) 芳川泰久・西脇雅彦 (2013) 『村上春樹読める比喩事典』、p47、ミネルヴァ書房。
 - 15) 芳川泰久・西脇雅彦 (2013) 『村上春樹読める比喩事典』、p184、ミネルヴァ書房。
 - 16) 芳川泰久・西脇雅彦 (2013) 『村上春樹読める比喩事典』、p25、ミネルヴァ書房。
 - 17) 芳川泰久・西脇雅彦 (2013) 『村上春樹読める比喩事典』、p36、ミネルヴァ書房。

受付日：2020年5月10日

